



生物多様性フォーラム



「ダニ博士」でおなじみ

五箇 公一

国立環境研究所
生物多様性領域室長

専門は保全生態学、農薬科学、ダニ学。著書に『これからの時代を生き抜くための生物学入門』『終わりなき侵略者との闘い 増え続ける外来生物』など。



世界の熱帯雨林を
またにかける!

湯本 貴和

きょうと生物多様性
センター長
京都大学名誉教授

元京都大学霊長類研究所所長。日本生態学会前会長。千葉市動物公園 動物科学館 改修の監修者。著書に『屋久島 巨木の森と水の島の生態学』『熱帯雨林』など。



「動物園ライター」として
動物園を取材・批評

森 由民

動物園ライター
(Zoo Critic)

全国の動物園・水族館で、飼育員と動物のかかわり、動物展示の手法などの取材を続けている。人びとの動物観を考えるという視角を重視。著書に『春・夏・秋・冬どうぶつえん』『ウソをつく生きものたち』など。

生物多様性フォーラム初日を飾る基調講演

3金 時間	内容	発表者 ※敬称略
12:30~12:55	開会挨拶	鍋木 一誠(千葉市動物公園園長)
13:00~14:10	生物多様性異変と新型コロナ 生物多様性は人間という生物の生命維持の必要基盤であるとともに、人間社会の持続的発展のための環境基盤とされています。私たち一人一人の日常生活との結びつきと生物・生態系と人間社会の共生のあり方について議論します。	五箇 公一
14:20~15:30	生物多様性の宝庫・熱帯雨林 熱帯雨林は地球上の陸地面積の7%を占めているにすぎませんが、生物種全体の半数以上が生息しているといわれます。熱帯雨林の生物をご紹介しますとともに、その現状と私たちの生活のつながりについて一緒に考えましょう。	湯本 貴和
15:40~16:00	現在人における生物多様性のかかわり方	五箇 公一 × 湯本 貴和

4土	千葉市動物公園と連携する学生による共同研究発表	
13:00~13:10	開会挨拶	鍋木 一誠
13:15~13:30	展示施設のコツメカワウソにおける来園者の視線の影響	千葉科学大学4年生
13:35~13:50	来園者の有無によるフクロテナガザルの行動および生理反応への影響	茨城大学4年生
13:55~14:10	サシバエの吸血飛来反応に及ぼす奇蹄目ウマ科の忌避行動評価	茨城大学大学院修士課程2年生
14:25~14:40	千葉市動物公園のニホンザルにおける食物洗い行動	東邦大学4年生
14:45~15:00	千葉市動物公園内のカラスの生息環境と被害状況	東邦大学4年生
15:05~15:20	Q.ハシビロコウって…動くんですか? A.動きます —千葉市動物公園における繁殖成功にむけた行動調査—	北里大学大学院修士課程2年生

5日	動物園への提言と千葉市動物公園の「大池」の魅力	
13:00~13:10	開会挨拶	鍋木 一誠
13:15~14:10	生きた本物 多様性の動物園展示について 本物と言い、多様性と言っても、たださまざまな生きた動物を展示すればこと足りるのではなく、動物たちをどのように展示し、何を伝えるかが常に問われます。生息環境をキーワードに、ひとつの例解を述べてみます。	森 由民
14:25~14:55	千葉市動物公園の大池生物調査 中間報告 千葉市動物公園の大池には、千葉市では希少となった生物の生息が確認されていますが、外来種の影響も見逃せません。その現状を知り、今後の保全に向けて現在までにわかったこと、今後どうしていくか、をお話したいと思います。	木村 幸一郎 (Hyper-Naturalist 東京都鳥獣保護管理推進員)
15:00~15:15	大池における罠による捕獲効率の違いについて	RGEEA研究助手/専門学校生
15:20~15:30	閉会挨拶	鍋木 一誠